

解説記事が充実しているのは朝日新聞の特徴のひとつではないでしょうか。

2006年4月に始まった「ニュースがわからん！」は、名称を「ニュースがわかる！」「いちからわかる！」に変えて、朝刊2面にほぼ連日掲載しています。土曜日夕刊にジュニア向け「ニュースのおさらい」があり、今年1月から読者の質問に答える「Re:」が始まりました。

一般に、この種の解説記事は、「ニュースの聞き慣れた言葉でも、その中身、原因や背景をよく知らない、今後どんなことが予想されるか、あの出来事が今どうなっているかなど、読者の知りたいこと」を丁寧に教えてくれるものです。

私が一番気になっているのが朝刊社会面の「ニュースQ3」です。火曜日～金曜日が主な掲載日です。新しい企画の開始日には、その趣旨などの説明があるだろうと考え、ニュースQ3について探しました。Q3のスタートは13年か12年頃だろうと目星をつけ、紙面刷新は4月、10月、1月が多いことを頼りに縮刷版をめくって、12年9月4日朝刊にスタートしたことを突き止めました。調べるのにかけた時間は3分でした。

この日の1面の紙面紹介には次のように書かれていました。(新企画「Q3」の読み方は「キュー・スリー」。さまざまな話題を素早く取材し、三つの角度から分かりやすく伝える。初回のテーマは「戦場ジャーナリスト」。)

多くの人を知っているニュースを解説した「いちからわかる！」とは、異なる視点だということが分かります。第1回の「戦場ジャーナリスト」を読み返すと、過激派組織「イスラム国」(IS)に拘束され、殺害されたとみられる、フリージャーナリスト後藤健二さんの行動がよく理解できます。

今年1月27日のQ3は、「ぼったくり」? 歌舞伎町の居酒屋、ネット批判浴び閉店)。1月28日は(塾選びにも役立つの? 業界初の全国組織設立へ)、1月30日(学校にエアコン、いる? いない? 埼玉・所沢で住民投票)、2月4日(公教育の教科書 宗教に不用意な価値判断)、でした。全国ニュースにならなかった記事やロコミ、ネット等では大きな話題となっていることを、このような形の記事にするとわかりやすく伝わります。

＝紙面は東京本社発行の最終版に基づく  
(鈴木伸男・全国新聞教育研究協議会顧問)